

2009 年度 日本海洋学会青い海助成事業 採択課題

【採択課題 1】

課題名：「日本全国みんなで作るサンゴマップ」の情報収集・提供機能拡張及びワークショップ開催

申請代表者：山野博哉（国立環境研究所）

活動団体：日本全国みんなで作るサンゴマップ実行委員会 (<http://www.sangomap.jp>)

活動趣旨・計画：

最近、サンゴ礁は地球温暖化等により急激な変化をとげていることが指摘され、その現状把握と保全活動が急務である。サンゴ礁の変化を広範囲（たとえば日本全国規模）で明らかにするためには、ダイバーなど一般参加型の情報収集活動が効果的である。こうした情報収集活動は普及啓発活動という意義を持つが、収集した情報を科学的・行政的に役立て、還元することにより、その意義はさらに深まるものと考えられる。2008 年の国際サンゴ礁年を機に、一般参加型のサンゴ調査活動「日本全国みんなで作るサンゴマップ」を立ち上げた（詳細は次項参照）。今年度は、その活動を継続・発展させ、モニタリング、データベースへと発展させる。また、継続的な活動のための普及啓発活動として、実行委員会-情報提供者の双方向の情報交換を行うワークショップを開催する。さらに、これまで得られたデータを解析し、日本全国でのサンゴ分布の変化を明らかにし、その要因を分析する。得られた結果はウェブや上記ワークショップ等で還元を行い、普及啓発及び継続的なデータ提供活動へとつなげる。

1. 情報収集・提供機能の拡張（本助成で予算計上）

現在の収集項目は、サンゴ分布（目撃）情報が中心となっている。地球温暖化の影響が顕著に表れ、かつ観察が行いやすいものは、「サンゴの白化」と本州付近への「サンゴの北上」である。今後の継続的なモニタリングのため、サンゴ分布情報とともに、白化と、サンゴ北上（温帯でのサンゴ出現）に関して別フォームを作成し、情報を収集し、表示する。

2. 普及啓発のためのワークショップの開催（本助成で予算計上）

情報提供者やダイバーの方々などを対象に、ワークショップを開催し、成果を還元するとともに、たとえばダイビングでの事業化など、参画者にとってメリットのある仕組みの構築に関して双方向の議論を行い、活動継続・拡大を図る。ワークショップは、日本のサンゴ礁域の中心で、サンゴ白化の可能性のある沖縄県（那覇、石垣）と、サンゴ北上の可能性のある関東周辺（東京、伊豆）で行うことを計画している。

3. 得られた結果の解析（予算計上せず）

昨年度から今年度にかけて得られた結果を解析し、その結果を上記ワークショップ等で還元し、普及啓発及び継続的なデータ提供活動へとつなげる。具体的には、以下の内容を考えている。

・1996 年環境庁発行のサンゴ礁分布図と比較し、変化の激しい地域を抽出し、物理要因（波

当たり、陸域影響等)と比較して変化の要因を解析する。

・ 1970年代に海中公園調査で記載された出現種と比較し、サンゴ分布の北上の可能性を検証する。

助成額：280,000円

【採択課題2】

課題名：「この川はどこへ行く? ～群馬県と海のつながり～」

申請代表者：石丸 隆 (東京海洋大学海洋科学部)

活動団体：東京海洋大学水圏環境学習会

活動趣旨・計画：

東京海洋大学では、水圏環境教育推進リーダーの養成を目的とした水圏リテラシー教育と中高校生を対象とした教育・啓発活動を行っている。本申請は、学生が主体となって、小学生を対象に夏休みに行うプログラムに対する助成を願うものである。

2009年7月19日(日)～20日(月)に、東京海洋大学水圏環境教育学研究室と群馬県立尾瀬高等学校との共催により、吹割れ渓谷周辺において、水圏環境学習会「この川はどこへ行く? ～群馬県と海～」を開催する。対象者は、群馬県尾瀬地域に住む小学校高学年(20名程度)及び、その兄弟や保護者とする。運営には、東京海洋大学水圏環境教育学研究室の4年生と群馬県立尾瀬高等学校理科部部員が当たり、東京海洋大学佐々木剛准教授と群馬県立尾瀬高等学校松井孝夫教諭が実地指導を行う。

群馬県尾瀬地域は、国立公園に指定されている尾瀬をはじめ、日本百名山に数えられる山々など、自然が多く残る地域である。そのため、数多くの山や森などに関する環境教育プログラムが実施されているが、海洋に関する積極的な取組は少ない。しかし、海との接点が少ない「海なし県」とはいうものの、群馬県の山々は、日本海側の源流となる阿賀野川や信濃川、太平洋側の源流となる利根川を有する「分水嶺」であり、また、日本海や太平洋へは100km程度と決して遠い距離ではない。群馬県民にとって、淡水は本来海由来であること、生活排水が日本海や太平洋へと流れ込むことへの理解は、水圏環境(海洋)リテラシーを高め持続可能な社会を形成する上で必要不可欠である。そこで、海とは関係が薄いと意識を抱いている群馬県尾瀬地域に住む人々を対象に、身近な水圏環境から海を感じ、海とのつながりを考える水圏環境(海洋)リテラシーを高めることを目的とし、以下の内容のプログラムを実施する。

プログラム内容

① 「魚ッチング フィッシング」

(目的) アイスブレイク。生きものの観察。水中での色の見え方を知る。

② 「魚魚(トト)あわせ」

(目的) アイスブレイク。上州の伝統文化に触れる。遊びながら、海の生きものを知

る。魚へん漢字を知る。

③ 「りんごと海」

(目的) 身近な食べものから、水圏環境を考える。

④ 「あまいの からいの に〜がいの」

(目的) 山のホタルと海のホタルの発光の違いを探る。

⑤ 「マスオくんの大冒険」

(目的) マスの生態を学び、川と海との繋がりを知る。

⑥ 「この川はどこへ行く?」

(目的) 水の流れを感じる。水圏環境だけでなく、それを取り巻く生きものや人の生活を知る。

⑦ 「今日は何の日 知らないの?」

(目的) ふり返り、まとめ。海の日に関連付け、水圏環境における群馬県の役割を再確認する。自然環境を活かし、尚且つラーニングサイクル理論に基づいたプログラムの実践は、五感を使った体験活動だけにとどまらず、子どもたち自らの興味、関心を引き出し、自然科学の探究心や科学的思考力、水圏環境(海洋)リテラシーを高める効果が期待され、その有効性や効果をアンケート調査の実施によって明らかにし、学会発表や論文投稿を実施する予定である。

助成額：164,610円

※ 今回の採択課題に対する助成額は、各課題の具体的な活動計画に基づく申請額を精査した結果、申請額にほぼ等しい額の助成を決定した。